



平成 29 年 10 月 31 日

各 位

会 社 名 ウェーブロックホールディングス株式会社
 代 表 者 名 代表取締役兼執行役員社長 木根 潤 純
 (コード番号：7940 東証第二部)
 問 合 せ 先 取締役兼執行役員管理本部長 石原 智憲
 (TEL. 03-6830-6000)

平成 30 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間の業績の予想値と実績値との差異、
通期連結業績予想の修正並びに剰余金の配当（中間配当）の決定
及び期末配当予想の修正に関するお知らせ

平成 29 年 7 月 18 日に公表した平成 30 年 3 月期（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）の第 2 四半期累計期間の業績予想と、本日公表した実績値との間に差異が生じたので下記のとおりお知らせいたします。

また、最近の業績動向を踏まえ、平成 29 年 7 月 18 日に公表した平成 30 年 3 月期の通期業績予想を修正いたしましたので、お知らせいたします。

くわえて、平成 29 年 10 月 31 日開催の取締役会において、平成 29 年 9 月 30 日を基準日とする剰余金の配当（中間配当）を下記のとおり行うことを決議するとともに、期末配当予想を修正いたしましたので併せてお知らせいたします。

記

1. 平成 30 年 3 月期第 2 四半期（累計）連結業績の予想値と実績値との差異

(平成 29 年 4 月 1 日～平成 29 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する四半期純利益	1 株あたり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円銭
前回発表予想 (A)	14,300	1,000	1,160	830	85.18
今回実績 (B)	14,381	1,118	1,297	954	97.36
増減額 (B-A)	81	118	137	124	
増減率 (%)	0.6	11.9	11.9	15.0	
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 29 年 3 月期第 2 四半期)	—	—	—	—	—

2. 平成 30 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正

(平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1 株あたり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円銭
前回発表予想 (A)	28,100	1,650	1,990	1,430	146.76
今回修正予想 (B)	28,100	1,800	2,170	1,600	162.25
増減額 (B-A)	0	150	180	170	
増減率 (%)	0	9.1	9.0	11.9	
(ご参考) 前期実績 (平成 29 年 3 月期)	26,886	1,359	1,696	1,107	106.19

3. 差異が生じた理由及び修正の理由

当第 2 四半期累計期間の業績につきましては、主にインテリア事業における販売が堅調に推移したことにより、操業度が向上したこと、ならびに製造経費の削減効果等により、営業利益以下が公表値を大きく上まわりました。

また、通期業績につきましても、第 2 四半期累計期間の業績の予想値と実績値の差異を踏襲し、上記予想数値のとおり修正しております。

4. 剰余金の配当（中間配当）の決定について

剰余金の配当（中間配当）の決定内容

	決定額	直近の配当予想 (平成 29 年 5 月 10 日公表)	(ご参考) 前期実績 (平成 29 年 3 月期中間)
基準日	平成 29 年 9 月 30 日	同左	—
1 株あたり配当金	12 円	同左	—
配当の総額	119,010,780 円	—	—
効力発生日	平成 29 年 12 月 5 日	—	—
配当原資	利益剰余金	—	—

5. 期末配当予想の修正について

期末配当予想の修正内容

	年間配当金		
	第 2 四半期末	期末	合計
前回予想 (平成 29 年 5 月 10 日)	12 円	12 円	24 円
今回修正予想		13 円	25 円
当期実績	12 円		
前期実績 (平成 29 年 3 月期)	—	—	—

6. 修正の理由

当社は株主の皆様に対する利益還元を重要な経営課題として位置付けており、長期的な観点から安定的な配当の継続を図ることを重視しております。

期末配当予想につきましては、通期の業績が公表数値を上回る見通しとなったことから、1 円を増配し、1 株あたり 13 円に修正いたします。この結果、1 株あたり年間配当金は 25 円となる予想であり、負ののれん償却額の影響を考慮した配当性向は 20.5%となります。

(注) 上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以上